

金曜の会報告

期 日 2019年11月29日

場 所 倉敷労働会館

参加者 4名 (O、HA、AR、YO)

内 容

『もみじ』合唱映像(AR)

『大地讃頌』合唱映像 (YO)

『からたちの花』教材解釈 (HA)

からたちの花では、1連と5連の関係、5連と6連の関係が話題になりました。1連と6連は同じことを書いていますが、1連が発見的なのに対して6連は内面的で何か自分の中にかみしめるような感じがします。その6連に影響を与えているのが5連と考えられます。

『そばで』からわざとその場所を選んでおり、人前で泣けないからここまで来て、しかもからたちの方を向いて泣いているように思われます。他人に見せることのできない涙をかなり長い時間流しながら。授業レベルで考えると、5連のみんなは友達なのかからたちなのか？からたちだとすると、木なのか花なのか？6連との関係を考えて、やはり花のように思われました。この詩の背景を調べると、工場で働くつらさからからたちのそばで涙する山田耕作を見て、北原白秋が詩にしたものだそうです。

合唱では、教師の表情や指揮が子どもとリンクしているか否かという視点で映像を見ました。指揮がなくても、子どもはピアノ伴奏やCDを聞いて歌います。私たちは、常にこういうことを頭に入れて子どもを見ていかななくてはなりません。そして、息を入れる・イメージを入れるなどの意図を持って指揮をする必要があります。

息を入れることは、常に指導に組み入れていかなとなかなか身に付きません。また、だらったとした雰囲気がある時には、少しリズムをテンポアップするなど、子どもの課題に合った適切な手を打つことの重要性も改めて感じさせられました。

これらは全て、やってみて、教わって実感したことです。やはり、チャレンジすることの大切さを感じました。文責 (YO)